

災害に備え防災訓練を実施



▲バケツリレーによる初期消火訓練(衡下)



▲避難所開設訓練(衡上)



▲AEDの取り扱い訓練(松原)



▲水消火器による初期消火訓練(駒場)



▲防災マップの見直し(奥田)



▲野菜を使った炊き出し訓練(衡中)



▲村備蓄食品(ホットライス)試食準備(大瓜下)



▲大鍋とかまごでの炊き出し訓練(ときわ台)



6月25日(日)、地区単位の防災訓練が各集会所で一斉に実施され、約700名の村民の方々が訓練に参加しました。始めに、防災行政無線による「Jアラートからの弾道ミサイル発射情報」の訓練放送を行いました。北朝鮮によるミサイル発射が懸念される中、住民の方々へミサイル発射に関する意識の啓発を行ったもので、県内では初めての訓練となりました。続いて大雨による災害を想定した訓練を行い、防災行政無線と緊急速報メールによる避難勧告発令の伝達後、住民の方々は直ちに各集会所に避難を開始しました。その後は各地区の訓練計画に基づき、避難所開設訓練や炊き出し訓練、初期消火訓練等を実施しました。

金ヶ崎町と 災害時相互応援に関する 協定を締結



岩手県金ヶ崎町・宮城県大衡村
災害時相互応援に関する協定締結式

6月30日(金)、村と県外自治体とは初となる災害時相互応援に関する協定を岩手県金ヶ崎町と締結しました。

金ヶ崎町とは昨年12月に友好交流都市協定を締結し、災害時の相互応援、産業や経済、文化、スポーツ、教育、芸術など幅広い分野での交流をはかることとしており、今回は災害が発生した際に、物資の供給や施設の提供、職員の派遣など協力関係を明確化させたものとなっています。

締結式の挨拶で萩原村長は、「この協定がお互いの町村の安全・安心の重要な布石となる」、また金ヶ崎町の高橋由一町長は、「本協定が住民の安心と交流につながり、お互いの地域発展の土台になることを期待する」と述べました。

立地協定を締結

7月10日(月)、県庁においてCKD株式会社・宮城県・大衡村の3者において立地に関する協定締結式があり、CKD株式会社 梶本一典社長、村井知事、萩原村長の3名が協定書に署名しました。

CKD株式会社は薬品包装等の製造で国内トップシェアを誇り、本社のある東海地区以外では、初めての工場立地となります。梶本社長は「地域の発展に少しでも貢献していきたい」と話し、萩原村長は「円滑に事業活動が実現されるよう、宮城県と連携してできる限りの支援をさせていただきます」と述べました。

◆企業概要(平成29年3月末)

商号 CKD株式会社
本社 愛知県小牧市応時二丁目250番地
資本金 110億1600万円
売上高 831億7400万円
従業員 単体2,092名
連結3,719名

国内工場 愛知県3工場(小牧市、春日井市、扶桑町) 三重県1工場(四日市市)
事業内容 自動機械装置・省力機器、空気圧制御機器等製造

◆新工場の概要

立地場所 大衡村松の平二丁目18番
(第二仙台北部中核工業団地)
敷地面積 36,251㎡
建物面積 約14,000㎡
(鉄骨造2階建て/一部3階建て)
投資額 約65億円
従業員数 約100名(5年後まで)
竣工時期 平成31年2月頃
事業内容 空気圧機器及び流体制御機器製造



外観イメージ図